

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

兵庫県

学校名

兵庫県立西宮南高等学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒 教職員 教育活動全般

目標・人権教育のねらい

・子どもの自尊心を大切にし、自己肯定感を高めるため、また、他者理解の大切さを学び思いやりの心を育むために、様々な教育活動を通して人権課題に取り組む

実施した内容

- ・自己理解・他者理解を促す人権ホームルームの実施
- ・いじめアンケートを実施し、いじめの未然防止や早期発見・早期対応を組織的に実施
- ・「いじめ未然防止プログラム」について職員研修を実施
- ・芸術鑑賞会で、LINEのやりとりが舞台になった演劇を鑑賞

工夫した点

- ・様々な場面を捉えて、自己理解や他者理解が進むように学校行事を活用した。特に、芸術鑑賞会では、演劇を通じてLINEのやりとりなどについて考えさせた。
- ・「家庭基礎」では、児童虐待などに関する法律やDV防止法について、子どもの権利とその歩みについてなどを通して、人権課題について理解させた。また、「情報I」で、情報モラル・法的知識など、インターネット利用時の注意事項を徹底し、ネットいじめを抑制するように指導した。

他教科との
関連

特別活動を中心に、様々な機会を捉えて実施

事業成果

事業前後の調査結果（観点：そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）
 知識的側面：1.50→3.50、価値・態度的側面：2.21→2.90、技能的側面：2.14→3.03
 自己肯定感2.06→2.58

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

兵庫県

学校名

兵庫県立西宮南高等学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒 特別活動（学校行事）

目標・人権教育のねらい

- ・自分の存在意義や価値を気付かせることで他者理解を深め、障害者への偏見や思い込みを取り除き、障害者の人権を尊重し、共に生きる意識を育てる
- ・障害者に対する思いやりの心を持ち、他者を理解し、サポートできる意欲や態度を養う

実施した内容

- ・講師に元兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課指導主事（現兵庫県立教育研修所指導主事）を招き、ご自身の体験談、また、教員として特別支援学校で出会った生徒の話「特別支援学校という選択に悩んだ生徒」や「障害を受け入れるということは簡単ではないこと」などを事例をもとに講演会を実施した

工夫した点

- ・講師の方に、自身の体験した生きづらさや進路選択、性的マイノリティや障害者について語ってもらった上で、「ちがいを受け入れて生きることの難しさ」や「ちがっていい」ことなどに触れてもらい、自他の思いや考えのちがいを気付かせた。
- ・特別支援学校から就職した生徒が定時制高校へ、そして就職した事例をもとに、障害者を身近に感じ、思いを馳せることができるように促した。

他教科との
関連

特になし

事業成果

事業前後の調査結果（側面：2項目毎、観点：そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）
 知識的側面：1.50→3.50、価値・態度的側面：2.21→2.90、技能的側面：2.14→3.03
 人権講演会前と受けた後の人権に関する自分の意識が変わったか（変わった87%）

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

兵庫県

学校名

兵庫県立西宮南高等学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒 特別活動（学校行事）

目標・人権教育のねらい

- ・外国人への偏見や思い込みを取り除き、外国人の人権を尊重し、共に生きる意識を育てる
- ・自然災害時における日本に滞在している外国人の現状や課題を通して、インクルーシブ社会の実現にむけて理解を深める
- ・外国人に対する思いやりの心を持ち、他者を理解しながらサポートできる意欲や態度を養う

実施した内容

- ・外国籍の講師を招き、人権講演会を「災害時、私たちにできる外国人のためのサポート～インクルーシブ社会の実現に向けて～」というテーマで実施
- ・人権講演会後に防災避難訓練実施し、本校職員とALTが作成した動画視聴及びワークシートを実施

工夫した点

- ・本校の立地を考慮した津波避難訓練と人権講演会を関連させ、防災をキーワードに多種多様な人たちで成り立つ共生の実現にむけて、講演会を実施した。
- ・講師については、外国籍の防災教育に長けた方をお招きし、「外国人とは」、「外国人の持っているせい弱性とは」、また、西宮市の現状や国の施策などについても触れてもらうことで、自身が外国人となった場合に思いを馳せながら、他者理解を促した。
- ・講演会から防災避難訓練、その振り返りと一連して実施することで、より、生徒に人権意識を高めるよう実施した。

他教科との
関連

- ・第1学年「論理表現Ⅰ」において、日本に居住している外国人に台風への備えについて英語で説明したり、外国での防災の事例を紹介したり、様々な視点から防災外国人について考えさせた。

事業成果

事業前後の調査結果（側面：2項目毎、観点：そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）
 知識的側面：1.50→3.50、価値・態度的側面：2.21→2.90、技能的側面：2.14→3.03
 人権講演会前と受けた後の人権に関する自分の意識が変わったか（変わった87%）

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

兵庫県

学校名

兵庫県立西宮南高等学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

第1学年 教科情報「情報Ⅰ」

目標・人権教育のねらい

- インターネット上でどのような人権侵害が起こっているのかを知り、どのように対応すべきなのかを学び、人権侵害の加害者にも被害者にもならないように考える。
- 人権侵害の被害者になった時にはどのように対応するのか考える。

実施した内容

- 個人情報について考えよう。（SNSなどで個人情報が流出した場合にどのような人権侵害が起こるのか）
- 法の重要性と意義について。（人権侵害などが起こった場合。法がどのように個人を助けてくれるのか）

工夫した点

(指導上の工夫)

- できる限り身近で起こった事象を調べさせ、被害者の視点だけでなく、加害者の視点からも生徒に考えさせた点。
- 調べる時にはインターネットだけではなく、新聞など他の媒体にも注意を向けさせた点。

他教科との
関連

特になし

事業成果

知識的側面：インターネット上で個人情報を扱う際に注意すべき事が理解できた。
 価値・態度的側面：インターネット上で人権侵害をする加害者の考え方と被害者になった時の法の重要性を認識した。
 技能的側面：PCやスマートフォンから簡単にアクセスできるインターネットの中で起こる人権侵害の加害者・被害者にならないための対応策や技術を身に付けた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

兵庫県

学校名

兵庫県立西宮南高等学校

人権課題

その他（自己理解及び他者理解）

対象学年・
取り扱った教科等

第1学年 特別活動（ホームルーム活動）

目標・人権教育のねらい

- ・日常的な出来事や情報に内在している「ちがい」に着目し、自他の思いや考えのちがいを知るとともに、お互いの思いや考えが異なっても良いことや、多様な存在があることへの理解を深める
- ・協働学習を通して、個々のちがいに気づき、その多様性を容認する心を育成する

実施した内容

- ・「ちがいのちがい」をテーマに、1回目のホームルーム活動では、「あっていいちがい」や「あってはいけないちがい」に気付かせる個人ワーク、グループワーク、プレゼンテーションを実施。2回目は、「ちくっと言葉」、「ふわっと言葉」を通して、自分の考えや行動について考えさせる協働学習を実施
- ・発展として、「“素敵な行動”を考えてみよう」をKJ法を用いて実施

工夫した点

- ・自己理解・他者理解を深めるために、人権講演会を事前学習と位置づけ、「ちがい」に着目した人権ホームルームを2時間実施し、他者との意見のちがいを実感させた。その後、再度、他者理解を促すために言葉に着目したホームルームを実施した。さらに、他者と意見を共有し、合意のもと、より適切な行動を促すようなホームルーム活動を実施した。
- ・グループワークでは、個々の意見を否定することなく、相手を認められるよう事前に「話し合いのルール」を示し、のびのびと活発に意見交換できるように配慮した。

他教科との
関連

特になし

事業成果

実施前・第1回ホームルーム活動後・第2回人権ホームルーム前の調査結果：
 知識的側面：1.48→3.71→3.51 価値・態度的側面：2.25→3.01→2.87 技能的側面2.18→3.21→3.01